資料３

精神センターの進捗状況

１　2025 年度の取組結果及び評価と 2026 年度の主な取組

2025 年度の取組結果及び評価	2026 年度の主な取組（重点事項）
基本方針１　県内の中核機関としての役割・機能の発揮 ・精神科救急医療システムに重点的に取り組み、当番病院、後方支援基幹病院（優先病院及び補完病院）として役割を担った。（４～12 月受け入れ患者数 95 人(当番 74 人、優先 21 人)、2024 年度 140 人（年間））(1-1) ・児童相談所との連携会を実施するとともに、県警察本部、愛知県、名古屋市の精神保健担当部門を交えての連絡会議を実施するなど行政機関との連携を強化し、児童の一時保護や、措置入院患者等の対応をスムーズに行うことができた。(1-3)	・引き続き、精神科救急医療システムにおける役割を担うとともに、当番病院が対応できない場合の優先病院として、また、優先病院も対応できない場合の補完病院として精神科救急医療システム全体を支えていく。(1-1) ・引き続き、児童相談所や警察と定期的な連絡会議を実施し、具体的な連携内容を協議することにより児童の一時保護や、措置入院患者等の対応を充実していく。(1-3)
基本方針２　高度で良質な医療の提供とエビデンスの発出 ・児童青年期について、愛知県、名古屋市の児童相談所との連携会を開催するとともに「子どものこころ専門医」の資格取得に向けて、院内の医師を専門医の下で該当患者の診察をさせるなどの育成を進め、医療提供体制の充実に取り組んだ。(2-1) ・先進的な医療である mECT・クロザピン治療について、他の医療機関からの依頼を円滑に受け入れるため、東２病棟の保護室を mECT 治療用として活用するとともに、西２、西３病棟でのクロザピン治療を計画的に進めた。(2-3)	・児童相談所との連携を強化するため、定期的な連携会を実施するとともに、「子どものこころ専門医」の資格を取得できるよう院内の医師を育成していく。 (2-1) ・引き続き他院からの mECT、クロザピン治療患者の受け入れを進めていく。(2-3) ・先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、クリニックへの説明会、精神科単科病院とのケースワーカーを中心とした意見交換を継続し、連携を強化していく。(2-3)
基本方針３　県内の医療や研究の中心となる人材の育成 ・名古屋大学のみでなく県内他大学からの専攻医等の受け入れについて重点的に取り組み、2024 年度に続き、2025 年度も県内他大学からの医師を１名（10 月）受け入れ、関係性の構築を図った。(3-1) ・認定看護師等の資格取得にかかる期間の業務分担の配慮を行うことにより、１名の看護師が自己啓発休業を利用して大学院で学んでいる。(3-2)	・実績のある大学からの専攻医の受け入れを継続、推進するとともに、他大学とも新たな関係性を築いていく。(3-1) ・引き続き、認定看護師等の育成に努めるとともに、資格取得にかかる期間の業務分担の配慮を行う。(3-2)
基本方針４　取組の見える化 ・公開講座や文化祭などの動画を公式 YouTube チャンネルで配信するとともに、Ｘ（旧 Twitter）に定期的な投稿を行うなど、積極的な広報に努めた。(投稿回数 96 回、フォロワー数 238 人)（１月末時点）(4-1, 4-2) ・精神科単科病院の見学受入れと、ケースワーカーを中心とした意見交換会を実施するとともに、当センターに興味のあるクリニックに個別に説明会を実施した。(4-4) ・近隣クリニック医師を１名新たに雇用して２名のクリニック医師に外来を担当してもらうことにより、クリニックとの連携を強化することができた。(4-5)	・引き続き、ホームページや公式 YouTube チャンネル、Ｘ（旧 Twitter）などを活用して情報発信するとともに、年報を発行し、ＰＲに努める。(4-1, 4-2) ・引き続き、先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、クリニック、精神科単科病院との連携を強化する。(4-4) ・引き続きオープンホスピタルの拡大を目指して、人材の発掘に努める。(4-5)
基本方針５　持続可能な安定した経営基盤の確立 ・名古屋市の依存症専門医療機関（アルコール健康障害）として申請し、選定された。また、2026 年度からギャンブル健康障害についても申請ができるよう、体制整備を進めた。(5-2) ・mECT やクロザピン治療など、先進的な医療を実施している当院の診療実績を積極的に周知することに重点的に取り組み、クリニックへの説明会、精神科単科病院とのケースワーカーを中心とした意見交換により、紹介患者等の新規入院患者を確保することができた。(5-1) ・毎朝のベッドコントロール会議で、病棟間や地域医療連携室との連携強化を図り、保護室等を有効的に使用することができ、救急患者の受け入れがスムーズに行えるようになった。(5-3) ・急性期患者の増加、慢性期患者の減少に対応するため、６月から西４病棟を急性期病棟とした。(5-3) ・作業所等での地域のサービスの充実により利用者が減少したデイケアを縮小した。（２グループ→１グループ）(5-3)	・引き続き、体制整備を進め、名古屋市の依存症専門医療機関（ギャンブル健康障害）として申請しギャンブル依存症に取り組む。(5-2) ・引き続き、先進的な医療の実施が困難な医療機関の患者を受け入れるために、クリニック、精神科単科病院との連携を強化する。また、ケースワーカーを中心として、総合病院との連携強化を図る。(5-1) ・引き続き、ベッドコントロール会議等により、保護室の有効活用と病棟内の連携による病床のスムーズな運用に努める。西４病棟を急性期病棟化したことによる効果を最大化するために、救急、急性期、慢性期の患者の適切な配置を進めて患者の確保を図る。(5-3)

２　収益的収支見込（精神センター）

（単位：億円）

		2024 決算	2025			2026 計画
			計画	決算見込	決算見込−計画	
収益	入院収益	18.3	20.2	19.1	△1.1	20.2
	外来収益	4.6	6.6	3.5	△3.1	6.5
	一般会計負担金	9.5	9.8	9.8	0	9.8
	その他収益	3.5	3.0	4.1	1.1	3.1
	収益　計	35.9	39.6	36.5	△3.1	39.6
費用	給与費	25.2	26.3	26.2	△0.1	26.3
	材料費	2.7	3.6	1.8	△1.8	3.6
	その他費用	12.9	13.2	13.3	0.1	13.2
	費用　計	40.8	43.1	41.3	△1.8	43.1
経常損益		△4.9	△ 3.5	△4.8	△1.3	△3.5
経常収支比率		88.0	91.9%	88.4%	△3.5%	91.9%

＜患者数、診療単価の状況＞

		2024 決算	2025			2026 計画
			計画	決算見込	決算見込−計画	
入院	１日平均患者数	183.4 人	210.0 人	190.3 人	△19.7 人	210.0 人
	１人１日平均診療単価	27,396 円	26,347 円	27,430 円	1,083 円	26,347 円
外来	１日平均患者数	185.0 人	282.0 人	184.2 人	△97.8 人	282.0 人
	１人１日平均診療単価	10,180 円	9,680 円	7,952 円	△1,728 円	9,683 円

＜分析結果＞

○収益の増減理由

入院収益	患者数	・前年度より新規入院患者は増加しているが、長期入院患者の退院促進により、延べ入院患者数が減少したこと等から、計画値には届かなかった。
	診療単価	・単価の高い急性期の患者数が増加したことにより、平均診療単価が増加した。
外来収益	患者数	・作業所等の地域でのサービスが充実してきたことにより、デイケア患者数が減少した。 ・地域移行が進んだことにより、再診患者が減少した。
	診療単価	・原則院外処方としたことにより、診療単価が下がった。
その他収益		・精神科救急医療当番委託料、一時保護委託料等が計画に比べて増加したことに加え、国庫補助金（医療機関における賃上げ・物価上昇支援事業）の受け入れにより、計画値を上回った。

○費用の増減理由

給与費	・給与改定に伴う増加の一方で、欠員（医師２人、看護師１人、医療技術者１人及びレジデント医師３人）があったことにより、計画より減少した。
材料費	・患者数が計画に達していないことに加え、原則院外処方としたことにより薬品購入費が減少したため、計画より減少した。
その他費用	・人件費の高騰に伴う委託費の増加等経費が増加したため、計画より増加した。

＜2026 年度の収支改善の取組＞

・名古屋大学のみでなく他大学から専攻医等を受け入れるなどして、医師を確保することにより、患者の確保を図る。
・他の医療機関や児童相談所との連携を進めることで、mECT やクロザピン治療を必要とする患者や一時保護を必要とする児童青年期の患者を受け入れるなどにより、入院患者、外来患者を確保する。
・西4病棟を急性期病棟化したことによる効果を最大化するため、救急、急性期、慢性期の患者の適切な配置を進めて患者の確保を図る。